

4月のアルミレポートおよび5月の見通し(上)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



予測レンジ

LME	現物後場買い1500-1700ドル ♣ 変わらず
スクラップ	0から-5円(前月最終価格より) ♣ 変わらず
為替	105-110円(一か月間TTM) ☂ 円高

■概況

前半は、イランが増産を表明したことによる原油の急落、2月のユーロ圏生産者物価指数(PPI)は前月比0.7%低下、前年比4.2%低下、予想は前月比0.5%低下、前年比4%低下だったこと、IMF(国際通貨基金)は2016年の世界経済の成長率見通しを再度下方修正。1月時点の予想成長率3.4%から3.2%に引き下げ。などのマイナス材料もあったが、米在庫の減少を受けてWTI原油が40ドルを超えたこと、3月の中国貿易黒字は298.6億\$。予想は308.5億\$。輸出は前年比11.5%増、予想は2.5%増だった。輸入は前年比7.6%減少。3月の中国自動車販売は前年比9.9%増の206万台などを好感じUP。

4月15日時点1550ドル(現物後場買い)と月初価格から47ドルUPの前半締めとなった。

後半は、産油国会合が5月にもロシアで開催される可能性が伝わったことで昨年11月来の水準まで上昇つれて全面高。

などのプラス材料もあったが、3月の中国鋳工業生産が+6.8%と予測の+5.9%を上回ったことや、3月の小売売上高が+10.5%と予測の+10.5%を上回ったがこれにより中国の景気対策が持続しないのではないかと懸念、8日発表された4月の中国貿易統計で輸出が-1.8%の1727億ドルと2カ月ぶりに前年割れだったこと。

輸入も-10.9%の1272億ドルと18カ月連続前年割れだったこと。

などのマイナス材料を受けてDOWN。

5月12日現在LME(現物後場)1553ドルと後半スタート価格から4ドルDOWNしてのスタートとなった。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

113.52 → 109.36(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比+1.2%の88万9501台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比+7.2%の21万2713台

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+8.4%の7万5744戸であった。

◆貿易指標

輸出

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前年比-16.1%の130t、2次合金が+88.3%の2124t、スクラップが-5.6%の8734tアルミ缶が+94.1%の5906t。

輸入

輸入は新地金が前年比-16.8%の10万9252t、2次合金が-8.7%の8万5780t、スクラップが-53.1%の506t、合金スクラップは-60%の2694t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-2.3%の17万5063t

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績は前年比+2.5%の6万6897tであった。

■概況

【自動車生産】

3月の四輪車生産台数は889,501台で、前年同月の878,577台に比べて10,924台・1.2%の増加となり、4カ月ぶりに前年同月を上回った。

3月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

乗用車-757,605台で17,369台・2.3%の増加となり、4カ月ぶりのプラス。このうち普通車は462,727台で35,381台・8.3%の増加、小型四輪車は158,365台で18,266台・13.0%の増加、軽四輪車は136,513台で36,278台・21.0%の減少。

トラック-119,980台で6,011台・4.8%の減少となり、11カ月連続のマイナス。このうち普通車は50,180台で4,908台・8.9%の減少、小型四輪車は33,049台で568台・1.7%の増加。軽四輪車は36,751台で1,671台・4.3%の減少。

バス-11,916台で434台・3.5%の減少となり、4カ月連続のマイナス。このうち大型は1,088台で37台・3.5%の増加、小型は10,828台で471台・4.2%の減少。

3月の国内需要は635,901台で、前年同月比8.6%の減少であった。

(うち乗用車532,468台で前年同月比9.3%の減少、トラック100,754台で同5.0%の減少、バス2,679台で同5.1%の増加。)

輸出は前年同月比1.8%の増加。(実績)

【自動車販売】

3月の国内自動車販売台数(軽は除く)は 21万2713台 で前年比+7.2%。

3か月ぶりプラス

内 乗用車	+8.4%
貨物	-0.4%
バス	+13.2%

【住宅着工数】

・平成28年3月の住宅着工戸数は75,744戸で、前年同月比で8.4%増となった。また、季節調整済年率換算値では99.3万戸(前月比2.0%増)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。また、季節調整値については前月比で持家、分譲住宅が増、貸家が減となった。

・住宅着工の動向については、平成26年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、前年同月比で横ばいの傾向となっていたが、足下では3か月連続での増加となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では2か月連続の増加(前年同月比4.3%増、季節調整値の前月比では4.6%増)。

(貸家)

前年同月比では5か月連続の増加(前年同月比1.1%増、季節調整値の前月比では4.4%減)。

(分譲住宅)

前年同月比では2か月連続の増加(前年同月比26.0%増、季節調整値の前月比では12.5%増)。

(分譲マンション)

前年同月比では2か月連続の増加(前年同月比49.0%増)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では5か月連続の増加(前年同月比8.0%増)。

※後半に関しましては、明日以降の紙面に掲載させていただきます。

アルミスクラップ問屋
限りある資源未来の為に
リサイクル

有限会社 小林金属商会

代表取締役 黒寄 篤幸

〒157 東京都世田谷区宇奈根1丁目6番1号
-0068 電話 (03)3415-5515(代)
FAX (03)3415-5514

5月16日付の銅合金地金標準販売価格を決定。

近畿青銅会(高木健会長)は、5月16日付の銅合金地金標準販売価格を決定した。

販売価格は次の通り。

(単位:キロ当たり円、カッコ内は前回比)

◇青銅BC1種=635円(-20) ◇青銅BC2種=775円

(-20) ◇青銅BC3種=815円(-20) ◇青銅BC6種=690円(-15) ◇青銅BC7種=715円(-20)

◇黄銅YBSC3種=560円(-10) ◇鉛青銅LBC3種=790円(-20) ◇りん青銅PBC2種=830円(-25)

大阪伸銅品問屋組合 第69期定期総会・懇親会を開催



挨拶に立つ高田理事長

大阪伸銅品問屋組合(理事長・高田憲二、ユニ金属株式会社代表取締役社長)

は13日夕

方、第69期となる定時総会を大阪市のホテル日航大阪「スカイテラス」で開催した。総会・懇親会には、組合員関係会社などから約40名が参

加した。

総会の後開催された懇親会では、初めに高田理事長が挨拶に立ち、「今年、創立70周年を迎える大阪伸銅品問屋組合を盛り立て、11月5日に開催される組合創立70周年記念式典を心に残る式典にしたい」とし、「70周年事業は3人の副理事長が進めており、自分は最後の良い所をいただく」と笑いを誘った。懇親会は和やかな雰囲気の中、久野実副理事長(久野産業株式会社社長)が乾杯の音頭を取り、中締めには斧昌伸副理事長(株式会社UACJ銅管販売大阪支店長)が挨拶に立ち、組合の発展と創立70周年記念式典の成功を祈念して、懇親会は幕を閉じた。